

資料紹介

鹿児島県国語教育史資料―その一―

副田凱馬 著作目録

新名主 健 一

(一九八九年十月十五日 受理)

副田凱馬(そえだよしま) 明治三十九年九月五日生 昭和六十三年十月八日没

博報賞受賞(昭和五十五年)の際の功績概要に「戦前戦後を通じ、作文教育において独自の方法を開拓して著しい効果をあげてきたほか、児童詩・児童劇の創作と指導、童話の口演なども行い、県内の国語教育、文学教育に大きい影響を与えている」とある。

副田凱馬の著作を記録することは、学習の綴方の提唱者であること・番号作文の発案、提唱者であること・南方綴方推進のリーダーであったこと・磯長武雄と対比しては握されること、などにより鹿児島県の国語教育史上大きな足跡を残しており、今後史実の正確な記述とともに意義づける上で必要な作業である。

副田凱馬に即するならば、その著作から教育観形成の過程がたどれることになり、また鹿児島県全体の国語教育通史の上で果たした役割が明らかになる。

平成元年十月十五日現在、確認できた文献をジャンルに分けて記載していく。いずれも原本は副田家所蔵(鹿児島市葉師二―十九―七三 一八九〇・〇九九二―五四―八五二三)で、その複写物は鹿児島大学教育学部国語科教育研究室にある。

新名主：鹿児島県国語教育史資料―その一―

一、著書

・「児童詩をこう育てる」

鹿児島県国語教育研究会 一九六二

・「ばんごう作文」南日本教育図書 昭和四十七年

二、詩(作品)

・「青い空」『鹿児島朝日新聞』

昭和六年一月十二日

・「短詩二篇 歳末・獨り」『鹿児島朝日新聞』 昭和十二年十二月十三日

・「新年」『南庭』第二卷第一號 昭和十三年一月一日

・「英霊」『鹿児島朝日新聞』 昭和十五年七月十五日

・「街」『詩藝術』3 『詩藝術社』 昭和二十九年四月

・「シャボン玉の歌」『九州詩集 一九五七年版』九州詩人懇話会

・「除夜」『詩藝術』6 『詩藝術社』 一九五五

・「ザ ファミリー オブ マン」『雑筆―詩芸術附録11号』 詩芸術社

昭和三十一年一月

・「霧」『薩摩野 第10号』 昭和三十一年四月

昭和三十一年一月

- ・「黄ばら」『銀河』創刊号 鴨池中学校文芸クラブ
 - ・「春」『三州談議』4 昭和三十三年
 - ・「わたしは日本を愛します」『南日本新聞』昭和四十二年二月三日
 - ・「人間はも一度」『南日本新聞』昭和四十四年二月十日
 - ・「少年よ、君はそれを忘れなかつたか」『南日本新聞』昭和四十九年十二月十四日
 - ・「炬火讃歌(一)(二)」鹿児島国体の時の歌・鎌田範政作曲
 - ・「喜び秋」『花どけい』第一一九号
 - ・「太陽の子どもたち」『花どけい』第一二四号・一九八二
 - ・「日本の長い夜」・『清風』昭和六十二年九月一日 日本叙勲者協会
- 〈以下 出典不明・未発表草稿含む〉
- ・「疲れ」昭和四十九年五月四日
 - ・「浴衣(ゆかた)」
 - ・「友情」
 - ・「夕映えの丘で」
 - ・「霧」
 - ・「陽春叙情」
 - ・「そこで」
 - ・「盛夏叙情」
 - ・「春」
 - ・「出発」
 - ・「梅花」
 - ・「おかあさん」
 - ・「深呼吸をしましょう」
 - ・「太陽の子どもたち」

- ・「初春」
- ・「朝が光をよぶように」
- ・「閉じこめられた部屋の中で」
- ・「消火のうた」

三、童話(作品)

- ・ラジオ童話「桃太郎」
- ・ラジオ童話「鯉幡のお話」
- ・「蕎麦(そば)の花鳥」
- ・「鳥い鳥い お前おりこうだ」『どうわ』十四号 鹿児島童話会
- ・「童話 白いさる」『南日本新聞』昭和五十九年九月
- ・「むかしを見る眼鏡」『南日本新聞』昭和五十二年一月一日
- ・放送童話「信ちゃんと夕やけの歌」『菊の花の見た夢』鹿児島童話会 昭和三十年七月

四、劇(作品および脚色・演出を含む)

- ・創作学校劇「お母様訪問記」
- ・学校劇「姉サンダカラ」
- ・学校劇「暁(あかつき)」
- ・創作学校劇「書方の時間」
- ・学校劇「時計を合はせて下さい―時の記念日―尋五・六用」
- ・学校劇「家庭訪問」『綴り方倶楽部』第五卷第三号 六月号
- ・「関ヶ原敗退記―妙圓寺詣うでの由来」『鹿児島教育』昭和八年十月
- ・放送劇「家畜会議」
- ・放送学校劇「楽しかった遠足」

・放送劇「野井倉の開田」

・放送劇「五万石溝」

・放送児童劇「春の便り」

・ラヂオスケッチ「郷土三大行事」

・放送日本童話「おむすびころりん」 脚色・演出

・水兵の母（読本巻十） 脚色

・日本昔話 源助じいさん 実演手引

・夏休みと金魚—金魚のひっこし—

・姉さんで損した

・人形の語らひ

・春

・國民學校のヨイ子供

・日章旗史

・嗚呼 須田先生 昭和十三年四月十三日

・無言の行

・ハル

・薩摩義士

・鶏の自由（二幕）

・重大事件

・遅刻したわけ

・城山

五、論文

・「生活真実に立つ朗読の指導」

東苑書房 昭和九年

・「児童詩の新しい出発」『新童詩の理論と指導実践工作』

東苑書房 昭和九年

・「偉くなる綴方への道」『系統的实践文話・尋五』東苑書房 昭和十年

・「児童詩は『みじかい文』ではない」

『くまざさ』 2 昭和二十八年十月

・「児童詩は子供のひとりごとである」

『くまざさ』 3 昭和二十八年十二月

・「ひとりごと」に嘘はない 、『くまざさ』 4 昭和二十九年三月

・「ひとりごと」は自分の言葉で語られる」

『くまざさ』 5 昭和二十九年六月

・「ひとりごとはどんな形で語られるか」

『くまざさ』 一九五四・七

・「ひとりごとはどんな形で語られるか(2)—児童詩の形態について—」

『くまざさ』第十号 一九五五

・「詩であるものと詩でないもの」 、『くまざさ』 第十三号 昭和三十一年十二月

・「詩はヤサシイ思いやりの心から生まれる—雅代ちゃん詩集—」ありと

リボン”を語る 、『くまざさ』 第十四号

・「詩であるものと—詩作指導としての自然の観察—」 、『くまざさ』 16

・「児童詩の勉強室—児童詩の見方・考え方・はなし方—」 、『くまざさ』

さ 18 一九五八

・「勉強の詩を書こう」 、『くまざさ』 20

昭和三十四年

・「季節の詩を書こう—夏の詩—」

『くまざさ』 21 一九六〇・七

・「學校劇の実践覚え書」 『月刊 工程』 昭和十年四月 椎の木社

・「兩文集の正しき姿」 『工程』 昭和十年十二月号

新名主…鹿児島県国語教育史資料—その一—

三〇七

・「学習綴方の実践へ」 『工程』 昭和十一年九月号

・「學校劇の實踐覺書―扮装の問題―」

『工程』 創刊号 昭和十三年三月

・「児童詩の新しき出発」 『綴方倶楽部 特別号』 昭和九年五月

・「鹿児島市を中心に地方生活暦」

『綴方教育』 昭和十年八月号

・「綴方指導は表現指導である」 『月刊 教育・国語教育』 昭和九年 厚生閣

・「ワタシノニンギヤウの検討」 『童詩教育』 昭和八年十一月號

・「学習の綴方」 『月刊 鹿児島教育』 昭和十一年八月・鹿児島教育会

・「人生をかう考へる」 夏樹光一(注・副田氏のペンネーム) 『扉』

(注・市尋高同人誌) 第一巻第二号 昭和五年六月

・「人生をかう考へる」 夏樹光一 『扉』 第一巻第三號 昭和五年七月

・「古手帖の中から」 夏樹光一 『扉』 第一巻八號 一九三〇、十二月

・「現代詩の比喩について」 『国語通信』 十六号 昭和三十三年十月

・「学習の綴方を語る」 『鹿児島国語教育第四号』 昭和三十一年六月

・「学習の綴方と児童詩を語る」 『国語教育12号』 昭和三十一年八月

・「私の場合―詩作に就いて―」 『野茨 早春号 18』 鹿児島市役所

文芸部

・「番号作文について―低学年の作文指導―」 『国語教育実践の開

拓』 博報児童教育振興会編 一九八三、二
〈以下 出典不明〉

・「学習綴方の実践へ」

・「四月・五月・六月・拾月の綴方教育表」

・「ふたたび詩作について―今日の詩の鑑賞と理解のために―」

・「言語世相と国語学習」

・「児童文の観方について」

・「児童作文の見方について」

六、随筆

・「生活戦士の記録」 『福岡日日新聞』 昭和十五年四月十四日

・「ラジオ国語学習とゆうことを」 『教育・文化 創刊号』 昭和二十七年六月十六日

・「おろかな倫理」 『南日本新聞夕刊』 昭和二十九年三月二十二日

・「この羊の年の私の童話」 『西田町福祉會報』 昭和三十年一月一日

・「春ひかる」 『朝日新聞』 昭和三十年三月六日

・「職場のひとり言を」 『毎日新聞』 昭和三十年七月三日

・「十五夜」 『毎日新聞』 昭和三十年十月二日

・「暮の街」 『朝日新聞』 昭和三十年十二月二十七日

・「木市」 『毎日新聞』 昭和三十一年四月十七日

・「船の上で」 『毎日新聞』 昭和三十三年八月二十四日

・「赤い羽根」 『九州矯正』 第十五巻第二号 昭和三十五年二月

・「夢とポタン」 ・「負けるも楽し」 ・「豆まき」 ・「いのちの時間」 ・「恩給の本」 ・「紙くず拾い」 ・「就職列車に思う」 ・「好意」 ・「汝の敵」 ・「南日

本新聞夕刊「思うこと」欄』 昭和三十七年一月〜九月

- ・「わたしの『教育丸38年の航跡』——先生への道(若き日の自画像)」「教育研究」一九六四・六 教育研究所
- ・「わたしの『教育丸』38年の航跡——精神作興の教育の旗の下で——」一九六四・十
- ・「わたしの『教育丸』38年の航跡——戦いの教育を生き抜けて——」ひら訓導のころの思い出」『MBCクォーター』NO17」一九六四
- ・「今は昔」『鹿児島県の教育 第10号』鹿児島県連合校長協会 昭和三十九年十一月
- ・「童話とわたし」『童話 会報第2号』昭和四十三年四月五日 鹿児島県童話会
- ・「県名『鹿児島』に思う」『随筆 かごしま』昭和四十四年六月十三日
- ・「くらしについて——思うこと——」『くらしのしおり NO4』昭和四十九年六月十日 鹿児島市くらしの課
- ・「人間万才の教育を」昭和四十九年九月二十日 『鹿児島県の教育 52号』
- ・「私の綴方教育あれこれ」『教育研究NO50』昭和52年 鹿児島県教育センター
- ・「植物人間と植物」『かごしま NO19』昭和五十五年八月
- ・「朝顔」『かごしま』昭和五十六年八月
- ・「五月、そして子供」『南日本新聞』
- ・「五十六年？」
- ・「酒ずしの如く」『随筆かごしま NO30』昭和五十七年十一月
- ・「ひとりごとが子供のうたに」『南日本新聞』昭和五十七年一月三日
- ・「気持ちはまだ働き盛り」『南日本新聞』昭和五十八年十二月二十七日
- ・「棕さんの20分間読書と作品を散歩する」『かごしま NO56』昭和六十三年三月
- 〈出典不明〉
- ・「追い越す者と追い越される者」
- ・「ラジオスケッチ 非常時大晦日風景」昭和四十四年十二月三十一日
- ・「春つれづれ」NHK・HG 土曜随想 昭和五十六年四月四日
- ・「思い出の一年生」NHK・HG 土曜随想 昭和五十六年四月十日
- ・「新入生」NHK・HG 土曜随想 昭和五十六年四月十八日
- ・「育ち立つもの」NHK・HG 土曜随想 昭和五十六年四月二十五日
- ・「南方つづり方の前進のために」『毎日新聞』昭和三十二年八月二十五日
- ・「ハマ投げの思い出」『西田町福祉會報』昭和二十八年一月一日
- ・「人生の第二の出版『一年生——新入学児をもつお母さんへ』」『ジュニア鹿児島新聞』昭和三十六年四月

- ・「幼児のウタ」 『みちしるべ』 昭和四十九年五月十五日
 - ・「3歳児のことばの育て方」 『幼児期の家庭教育』 県教委 昭和五十年三月
 - ・「ねえちゃん とめないでもいいよ」
 - ・「みちしるべ」 昭和五十年八月十五日
 - ・「子どもの心を開く」 『南日本新聞 夕刊』 昭和五十三年十一月七日
 - ・「本好きな子どもを育てるためには親はどのようなことに気をつけたらよいか」 『幼児期の家庭教育』 県教委 昭和五十五年
 - ・「絵本の上手な与え方、見せ方、読み聞かせ方」 『月刊マミィ』 小学館 昭和五十六年
 - ・「生活言葉のしつけ」 『かごしまの教育』 昭和五十六年十二月一日
 - ・「ひとりごとが子供のうたに」 『南日本新聞』 昭和五十七年一月三日
 - ・「本好きな子供を育てるには親はどのようにすればよいか」 『乳幼児の家庭教育』 昭和五十七年
 - ・「子供育てについて」 『教友会会報』 五十三号 昭和六十年一月二十日
 - ・「人間としての資格、条件について」 『城西中学校PTA新聞』 昭和六十年七月十八日
 - ・「新しく成人式を迎えられた皆さんへ」 財部町選挙管理委員会
- 七、その他
- ・「我等の學園」 卒業記念號の編輯を語る」 『綴方教育』 昭和十四年一月號
 - ・「學級通信 傳書鳩」 五号 昭和十六年四月一日
 - ・「磯長武雄さんを語る」 『鹿児島国語教育 第七号』
 - ・「作品を選んだ後の言葉」 『青空—中学校用—5』 一九五四 鹿教組鹿児島郡支部
 - ・「おわかれのことば」 『あこが』 第34回卒業記念文集 城南小学校
 - ・「オアシス」 第七号 『学習作文号』 への御礼」 昭和三十二年三月 高城西中 『オアシス 第八号』
 - ・「棕鳩十集を読んで」 昭和三十四年三月十日 南日本新聞
 - ・「思い出の市尋高」 『記念誌 学校移転講堂落成』 名山小学校 昭和四十年七月
 - ・「あとがき」 『鹿師大正十五年卒 五十周年記念 同窓会誌』 昭和五十年十一月
 - ・「児童福祉を考える」 『この子らとともに』 第二集 日本児童ペンクラブ 昭和五十四年
 - ・「記念詩集号に寄せて」 『文集 かごしま—記念特集号—』 昭和五十五年
 - ・「高木さんとわたし」 『詩芸術』 一九八一
 - ・「百田さんを想う」 『工程、綴方学校—復刻版 月報 NO13』 一九八一
 - ・「追悼 棕鳩十さん」 『南日本新聞』 昭和六十三年一月十三日
 - ・「一色次郎さんを悼む」 『南日本新聞』
 - ・「昭和六十三年六月一日 南方三人集に寄せて」 『南方三人集』

昭和四十九年

・「童話 第73号」 一九八九 鹿児島童話会

・『私たちの作文』について 第一集〜第十五集 昭和三十八年度〜昭和五十三年度

・「動物愛護作文を読んで」 『動物愛護作文集』 昭和五十四年度〜昭和六十三年度

・『小さな親切』 作文を読んで 『小さな親切 作文コンクール 入選作品集』 第五集〜第十集 '83〜'88

〈作詞〉

・「明るい選挙たんこ節」

・「よい子のうた」

・「西伊敷小学校校歌」

・「明るい選挙おはら節」

・「あいら幼稚園園歌」

・「てんでん子ども—子どもを守る歌—」

—○—○—○—○—

〈副田凱馬氏に関する記事等〉

・「早くも大呼物 須田訓導劇—副田凱馬訓導の創作—」 『鹿児島新聞』 昭和十三年四月十三日 『鹿児島新聞』 昭和十三年四月十三日

・「郷土人系(一〇八) 生活の歌」 つづる」

『南日本新聞』 昭和三十八年十一月十三日

・「書き方を自然に体得—副田凱馬著 『ぼんごうさくぶん』 蓑手重則

・「副田凱馬先生の死を悼む」 谷口さきお

「詩誌 野路 30」 野路社 一九八八、十二

新名主…鹿児島県国語教育史資料—その一—